平成26年1月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年5月24日

上場会社名　ダイドードリンコ株式会社　　上場取引所　東
コード番号　2590　URL　http://www.dydo.co.jp/
代表者　(役職名) 代表取締役社長　(氏名) 高松　富博
問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役　(氏名) 八尾　雅幸　TEL 06-6222-2641

四半期報告書提出予定日　平成25年6月3日
配当支払開始予定日　―
四半期決算補足説明資料作成の有無　：　有
四半期決算説明会開催の有無　：　無

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年1月期第1四半期の連結業績(平成25年1月21日～平成25年4月20日)

(1) 連結経営成績(累計)　(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年1月期第1四半期	35,407	7.9	372	△77.9	424	△73.9	78	△82.5
25年1月期第1四半期	32,826	△2.3	1,686	30.0	1,625	42.7	447	―

(注)包括利益　26年1月期第1四半期　718百万円　(32.6%)　25年1月期第1四半期　541百万円　(―%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年1月期第1四半期	4.72	―
25年1月期第1四半期	26.98	―

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
26年1月期第1四半期	147,006	79,100	52.6
25年1月期	140,487	79,097	55.1

(参考) 自己資本　26年1月期第1四半期　77,374百万円　25年1月期　77,370百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年1月期	―	20.00	―	40.00	60.00
26年1月期	―				
26年1月期(予想)		30.00	―	30.00	60.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無　：　無

3. 平成26年 1月期の連結業績予想(平成25年 1月 21日～平成26年 1月20日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	77,700	10.4	2,400	△48.1	2,300	△49.2	1,200	△53.6	72.43
通期	159,300	7.0	8,000	0.8	7,750	0.3	4,410	0.0	266.22

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無　：　無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 ―社 (社名) 、 除外 ―社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
(注)詳細は、【添付資料】3ページ「四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 有
④ 修正再表示 : 無
「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成に関する規則」第10条の5に該当するものであります。詳細は、【添付資料】3ページ「会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	26年1月期1Q	16,568,500 株	25年1月期	16,568,500 株
② 期末自己株式数	26年1月期1Q	1,576 株	25年1月期	1,553 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	26年1月期1Q	16,566,941 株	25年1月期1Q	16,566,947 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、【添付資料】3ページ「連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

１．当四半期決算に関する定性的情報 …… 2
（１）連結経営成績に関する定性的情報 …… 2
（２）連結財政状態に関する定性的情報 …… 3
（３）連結業績予想に関する定性的情報 …… 3
２．サマリー情報（注記事項）に関する事項 …… 3
（１）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 …… 3
（２）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 …… 3
（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 …… 3
３．四半期連結財務諸表 …… 4
（１）四半期連結貸借対照表 …… 4
（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 …… 6
四半期連結損益計算書
第１四半期連結累計期間 …… 6
四半期連結包括利益計算書
第１四半期連結累計期間 …… 7
（３）継続企業の前提に関する注記 …… 8
（４）セグメント情報等 …… 8
（５）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 …… 8

１．当四半期決算に関する定性的情報

（１）連結経営成績に関する定性的情報

当第１四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政権交代による経済政策への期待感から円高の是正や株価の上昇など景気回復の兆しが見られたものの、海外経済の下振れによる影響が懸念されるなど、先行き不透明な状況で推移いたしました。

飲料業界におきましても、消費者の節約志向は依然継続しており、さらに低価格化が進行するなど販売競争が益々激化する厳しい状況が続いております。

こうした中、当社グループは自販機事業の維持・拡大並びに流通事業の強化・拡充を図りつつ、コーヒー飲料を主軸として各チャネルに即したマーケティング戦略を展開し、ブランドを一層強化させることで、更なる収益力強化に注力してまいりました。

また、営業効率の改善に向けあらゆる業務の見直しを実施するなど、引き続き徹底したコストコントロールを行い、利益確保に努めてまいりました。

以上の結果、当第１四半期連結累計期間の売上高は、35,407百万円（前年同期比7.9％増）、営業利益372百万円（前年同期比77.9％減）、経常利益424百万円（前年同期比73.9％減）、四半期純利益78百万円（前年同期比82.5％減）となりました。

セグメント別の状況は次のとおりであります。

①飲料販売部門

商品面では、昨年秋にブランドを一新いたしました「ダイドーブレンド」において、「ブレンドＢＬＡＣＫ」、「ブレンドWＨＩＴＥ　ＢＬＡＣＫ」、「ブレンドアイスコーヒー［微糖］」、「ブレンドミルクコーヒー」を新たに発売し、ラインアップの充実を図るとともに、ブレンドが織り成す豊かで複雑な味わいの素晴らしさを広く訴求し、幅広いユーザーの囲い込みとシェアの維持拡大に注力しました。

自販機の導入につきましては、消費者に支持される注目度の高い新しい自販機の積極投入と、不採算先自販機の撤去やスクラップ＆ビルドという投資効果に主眼を置いた設置ロケーションの選定を行い、採算性を一層重視した強固な全自販機の見直しに注力しました。

また、導入する自販機につきましては、「ヒートポンプ自販機」、「ＬＥＤ照明自販機」など地球環境に優しい節電効果の高い「エコ自販機」の徹底した開発・採択に努めました。また災害時における迅速で有効な支援ツールとなる「災害救援自販機」や、収益金の一部を募金として寄付する「緑の募金自販機」、「盲導犬育成募金自販機」、「ギャラクシー募金自販機」等の「社会貢献型自販機」を投入するなど、地域社会や消費者に支持される新しい自販機の積極投入を行いました。

以上の結果、飲料販売部門の売上高は30,160百万円（前年同期比1.0％減）となりました。

②飲料受託製造部門

近年、消費者ニーズはドリンク剤から健康食品やサプリメント（健康補助食品）への流れに変わり、ドリンク剤と競合する商品が数多く発売されるようになりました。そうしたニーズをいち早く掴み、従来のドリンク剤のノウハウを礎として、「美容と健康」を謳った女性向け商品を開発する体制をつくり上げたことから、多方面にわたり受注を獲得することができるようになりました。さらに営業開発体制の強化並びに生産体制の整備が年々拡充したことに加え、昨今の厳しい経済環境の変化から大手医薬品等有力メーカーの生産スタイルが、「自社生産」から「ＯＥＭ生産」にウエイトシフトしたことなどにより、傾向的には安定した受注を確保できるようになりました。

以上の結果、飲料受託製造部門の売上高は2,609百万円（前年同期比10.3％増）となりました。

③食品製造販売部門

ドライフルーツゼリー市場においてトップシェアを有する株式会社たらみの発行する全ての株式を取得し、連結子会社としたことに伴い、前第２四半期連結会計期間より新たなセグメントといたしました。第３の柱となる新分野の事業を獲得したことで、将来の持続的成長を実現できる新たなビジネスチャンスの創出を図り、当社グループの更なる企業価値向上に注力いたしました。

以上の結果、食品製造販売部門の売上高は2,637百万円となりました。

なお、当社グループは、飲料の製造・販売を主たる業務としているため、四半期単位での業績には季節的変動があり、通期業績における第１四半期の割合は低く、次のとおりであります。

	第１四半期	第２四半期	第３四半期	第４四半期	計
25年１月期売上高（百万円）	32,826	37,578	43,024	35,473	148,902
通期に占める割合（%）	22.1	25.2	28.9	23.8	100.0
26年１月期売上高（百万円）	35,407	―	―	―	―

（２）連結財政状態に関する定性的情報

当第１四半期連結会計期間末の総資産は有形固定資産や売上債権の増加などにより、前連結会計年度末と比較して6,518百万円増加し、147,006百万円となりました。

負債は、長期借入金の増加などにより、前連結会計年度末と比較して6,515百万円増加し、67,906百万円となりました。

純資産は、その他有価証券評価差額金の増加などにより、前連結会計年度末と比較して3百万円増加し、79,100百万円となりました。

（３）連結業績予想に関する定性的情報

今後の見通しにつきましては、円高の是正や株価の上昇など景気回復の兆しが見られたものの、雇用・所得環境は不透明な状況で、清涼飲料全体の消費に対する節約志向は依然として続いており、さらに低価格化が進行するなど企業間競争は益々厳しさを増し、当社グループにとっても大変厳しい経営環境が続くものと予想されます。

今後は、最盛期である夏場の天候や、不透明感の漂う消費低迷等のリスクを考慮し、第２四半期連結累計期間および通期の連結業績見通しにつきましては、平成25年２月25日の決算短信発表時に公表いたしました業績予想に変更はございません。

２．サマリー情報（注記事項）に関する事項

（１）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

（２）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用については、当第１四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

なお、法人税等調整額は、法人税等に含めて表示しております。

（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

（会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更）

当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、当第１四半期連結会計期間より、平成25年１月21日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。

なお、これによる当第１四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益に与える影響は軽微であります。

３．四半期連結財務諸表
（１）四半期連結貸借対照表

（単位：百万円）

	前連結会計年度 （平成25年１月20日）	当第１四半期連結会計期間 （平成25年４月20日）
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	33,135	34,689
受取手形及び売掛金	14,505	16,691
有価証券	14,263	13,172
商品及び製品	5,309	6,594
仕掛品	10	6
原材料及び貯蔵品	1,281	1,466
その他	2,256	2,038
貸倒引当金	△12	△15
流動資産合計	70,750	74,643
固定資産		
有形固定資産		
工具、器具及び備品（純額）	11,680	14,739
その他（純額）	20,376	20,046
有形固定資産合計	32,056	34,785
無形固定資産		
のれん	5,981	5,904
その他	6,438	6,418
無形固定資産合計	12,419	12,323
投資その他の資産		
投資有価証券	19,484	19,038
その他	5,815	6,253
貸倒引当金	△38	△38
投資その他の資産合計	25,261	25,253
固定資産合計	69,737	72,362
資産合計	140,487	147,006

（単位：百万円）

	前連結会計年度 （平成25年１月20日）	当第１四半期連結会計期間 （平成25年４月20日）
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	16,638	18,154
短期借入金	2,461	3,347
未払金	12,963	15,701
未払法人税等	1,182	253
賞与引当金	976	1,642
役員賞与引当金	―	9
その他	8,600	7,918
流動負債合計	42,822	47,027
固定負債		
長期借入金	8,298	11,001
退職給付引当金	146	153
役員退職慰労引当金	678	691
その他	9,445	9,031
固定負債合計	18,568	20,878
負債合計	61,390	67,906
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,924	1,924
資本剰余金	1,464	1,464
利益剰余金	73,919	73,335
自己株式	△3	△3
株主資本合計	77,304	76,719
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	48	450
繰延ヘッジ損益	0	0
為替換算調整勘定	17	203
その他の包括利益累計額合計	66	654
少数株主持分	1,726	1,726
純資産合計	79,097	79,100
負債純資産合計	140,487	147,006

（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
（四半期連結損益計算書）
（第１四半期連結累計期間）

（単位：百万円）

	前第１四半期連結累計期間 （自　平成24年１月21日 至　平成24年４月20日）	当第１四半期連結累計期間 （自　平成25年１月21日 至　平成25年４月20日）
売上高	32,826	35,407
売上原価	14,665	16,022
売上総利益	18,160	19,384
販売費及び一般管理費	16,474	19,012
営業利益	1,686	372
営業外収益		
受取利息	54	182
有価証券売却益	0	－
受取賃貸料	37	12
その他	173	189
営業外収益合計	265	383
営業外費用		
支払利息	232	194
持分法による投資損失	1	41
その他	91	95
営業外費用合計	326	331
経常利益	1,625	424
税金等調整前四半期純利益	1,625	424
法人税等	1,127	295
少数株主損益調整前四半期純利益	498	128
少数株主利益	51	50
四半期純利益	447	78

（四半期連結包括利益計算書）
（第１四半期連結累計期間）

（単位：百万円）

	前第１四半期連結累計期間 （自　平成24年１月21日 至　平成24年４月20日）	当第１四半期連結累計期間 （自　平成25年１月21日 至　平成25年４月20日）
少数株主損益調整前四半期純利益	498	128
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	25	402
為替換算調整勘定	18	57
持分法適用会社に対する持分相当額	△0	130
その他の包括利益合計	43	589
四半期包括利益	541	718
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	493	666
少数株主に係る四半期包括利益	48	52

（３）継続企業の前提に関する注記
該当事項はありません。

（４）セグメント情報等
Ⅰ　前第１四半期連結累計期間（自平成24年１月21日 至平成24年４月20日）
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	報告セグメント				調整額（百万円）（注）１	四半期連結損益計算書計上額（百万円）（注）２
	飲料販売部門（百万円）	飲料受託製造部門（百万円）	食品製造販売部門（百万円）	計（百万円）		
売上高						
外部顧客への売上高	30,461	2,365	－	32,826	－	32,826
セグメント間の内部売上高又は振替高	－	169	－	169	△169	－
計	30,461	2,534	－	32,995	△169	32,826
セグメント利益	1,327	361	－	1,689	△2	1,686

（注）１．セグメント利益の調整額△2百万円には、セグメント間取引消去0百万円、棚卸資産の調整額△2百万円が含まれております。
２．セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

Ⅱ　当第１四半期連結累計期間（自平成25年１月21日 至平成25年４月20日）
１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	報告セグメント				調整額（百万円）（注）１	四半期連結損益計算書計上額（百万円）（注）２
	飲料販売部門（百万円）	飲料受託製造部門（百万円）	食品製造販売部門（百万円）	計（百万円）		
売上高						
外部顧客への売上高	30,160	2,609	2,637	35,407	－	35,407
セグメント間の内部売上高又は振替高	－	140	9	149	△149	－
計	30,160	2,749	2,646	35,556	△149	35,407
セグメント利益又はセグメント損失（△）	63	355	△49	370	1	372

（注）１．セグメント利益の調整額1百万円には、セグメント間取引消去0百万円、棚卸資産の調整額1百万円が含まれております。
２．セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

２．報告セグメントの変更等に関する事項
当社は、従来、「飲料販売部門」、「飲料受託製造部門」の２つの報告セグメントとしておりましたが今後の事業領域の拡大と将来の更なる企業価値向上のため、平成24年６月18日に株式会社たらみを完全子会社化いたしました。これに伴いセグメントの見直しを行い、前第２四半期連結会計期間より「飲料販売部門」、「飲料受託製造部門」、「食品製造販売部門」の３区分に変更いたしました。
なお、前第１四半期連結累計期間のセグメント情報は、セグメント見直し後の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示いたしております。

（５）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記
該当事項はありません。